

富田高慶

とみだ ちかひ

農政家。

文化十一年六月一日陸奥國相馬郡生れ、明

治二十二年一月五日歿（八四—九〇）。舊姓齋藤、字弘道、通稱久助。

號任齋。天保元年江戸で屋代弘賢の導く。十年二宮尊徳の門に入る。

爾後尊徳の同行、また報徳社法を以て農村の復興と藩財政の改善を志す。圖つた。明治十年興復社を興して社長となり、縣内各地を開墾。齋藤

高行、福住正元しんげん、岡田良一郎と共に尊徳門下四人の一人。

著書に、『報徳論』

（明治二十九年六月十五日

磐城國 相馬郡

興復社、有隣堂發

賣）、『報徳記』

（昭和八年七月十日岩波書店「岩波文庫」。寺島文

夫改訂『報徳記』現代語版』（二十二年四月十五日文理書院）、編『報

徳論語』（昭和十年十月二十一日大日本聯合青年團）等の他、水野末

治著『報徳式更生の方途と富田高慶』（昭和十年二月十一日福島・福

島縣實業教育振興會）、鷲山恭平著『富田高慶先生年譜』（昭和十四

年二月二十五日静岡・大日本報徳社）、佐藤大平著『富田高慶』（昭

和十七年六月二十日宮越太陽堂書房）等がある。